

第2の「6・12」を狙った「暴力事件」デッチ上げを許さぬ



83.12.22

No. 1524

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二七・二〇七

動労本部革マルが当局にタレコミ弾圧を要請



動労「本部」革マルは、またも「暴力事件」なるものをデッチ上げ、権力、当局を利用した動労千葉の組織破壊を開始しています。われわれは、第二の「6・12事件」を狙った革マルの悪質なやり口を徹底的に弾劾するとともに、革マル分子追放・一掃、「本部派」解体にむけて総決起することをあらためて決意するものです。



権力・当局に弾圧を要請する 動労「本部」革マル

動労「本部」革マルは十二月十二日、「津田沼電車区内で『動労津田沼支部書記長』海宝が動労千葉の片岡執行委員に暴力をふるわれた」として千葉鉄当局にデッチ上げタレコミを行う一方、翌日には「千葉地本情報（12月12日付）」に「暴力事件」なるデマ記事を載せ、一斉にばらまきました。

さらに十二月十五日には、「千葉地本委員長・土屋粹」名で千葉鉄局長に書面で「緊急申し入れ」を行い、必死で権力・当局の弾圧を要請しています。

しかし、動労「本部」革マルは「暴力事件」なるものが明らかにデッチ上げであるがゆえに、当局が一切介入できないことに苛立ち、「この事態は、6・12暴行事件の当局対応のズサンさを教訓化した職場管理の確立が希薄であると指摘せざるを得ない」（申し入れ）とか、「海宝君への暴行行為は日常からなら対処をなし得ない当局としての責任を完全に放棄した結果である」（申し入れ）と八つ当たりし、「責任ある見解と対処を強く要求する」などと当局に弾圧を懇請しています。

「暴力事件」デッチ上げは、 動労千葉破壊が目的だ

そもそも海宝なる人物は、当局と動労「本部」革マル（東京地本「委員長」松崎が密約し、動労千葉の組織破壊のみを目的に送りこまれてきた革マル反動分子なのです。

海宝は、昇給協定問題をめぐる裏切り行為を厳しく追及されて答えられなくなるや、その本領を発揮し「暴力事件」デッチ上げをやったのけたわけです。

この「暴力事件」のデッチ上げは、昇給問題をめぐる動労「本部」革マルの一連の行為の中に明らかかなように、片仕切りという裏切りをしながら

その動労「本部」の「たたかい」を正しいといいくるめ、逆に闘っている動労千葉や国労が悪いと攻撃するという、まさに「動労千葉・国労を解体し、動労革マルだけ生き残る」路線のもと、第二の「6・12事件」を狙ったものです。

「事件」がデッチ上げであることは、「片岡一博による暴力行為を糾弾する」なる「千葉地本情報」（12月12日付）を出しながら、「暴力問題」はさておき、昇給問題をめぐって「千葉動労では組合員の利益を守れない」なるケチつけに、紙面の大半を費しているのを見ても明らかです。

また、この間の一連の「千葉地本情報」は「千葉動労は、昇給問題でカヤの外に置かれているから、千葉動労のせいで年内に差額がでないなどとは思ったこともないし考えも及ばない」などと、動労千葉は無力なんだと懸命に強調しているのです。

それ程動労千葉の力が小さくて、影響力がないというのなら、動労千葉の組合員の家庭に金をかけてピラを郵送したり、革マル分子・村上のように、館山支部の組合員の名を語って「昇給問題について説明してくれ」と深夜本部に電話をしてきたり、ましてや海宝のように「暴力事件」をデッチ上げて権力、当局に弾圧を哀願する必要はないはずだ。

「国鉄・三里塚」路線で動労「本部」 革マルの一掃をかちとろう

動労「本部」革マルは、動労千葉との組織争闘戦に完敗し、必死でスト破りを策動して、首都圏をマヒさせる81・3ジェット闘争を打ちぬいた動労千葉の強さ、その影響力を他の誰よりも知っています。であるからこそ、権力、当局と一体となって執権に動労千葉破壊の攻撃をかけてくるのです。

この動労千葉の強さこそ「国鉄・三里塚を基軸に闘う労働運動」路線にあることにますます自信と核心をもち、動労「本部」革マルの姑息なデッチ上げを粉碎し、動労革マル一掃・動労大改革にむけて闘いぬこうではありませんか。